

収入の部を説明させていただく。

- ・項1 会費は、各地区校長会から納入された前期分と一部後期分の合計金額となっている。
- ・項3 補助金についてだが、今年度、全連小からの助成金が増額されたため、予算より多い収入となっている。
- ・項4 借入金は、1,200万円となっているが、備考にあるように会費完納後は特別会計運営積立金へ返戻となる。1,200万円は、会費が納入されるまでの間に運転資金として最低限の必要な金額であるため、会費が完納される1月頃に運営積立金に返戻する方法をとっている。

支出の部を説明させていただく。

1 研究大会費について

- ・大会運営費として3,000,000円支出している。
- ・旅費は大会に関わる打合せや下見等で支出している。なお、大会運営研修会の支出については、開催が10月3日のため、ここでは反映されていない。
- ・雑費は、分科会がハイブリッド開催となったため大会関係費諸経費の支出はない。この後は、全国大会準備金積立として、1会員500円の合計483,000円を支出する予定である。

2 研究調査費について

- ・旅費は地教研が3年ぶりに会場で開催された地区が多くあったが、オンライン開催・ハイブリッド開催もあったことから、予算よりも少ない支出となっている。
- ・資料用紙・作成費の執行は現在0円だが、1月頃に支出を予定している。

3 研究成果刊行費について

- ・研究成果刊行費は、備考欄の強調文字が未執行分となっている。

4 対策活動費について

- ・平成29年度から札幌市が北海道から税源移譲されたことに伴い、対策活動に見合う経費を想定し、920,000円を札幌市小学校長会に計上している。

5 事務局費について

- ・備考の種目によりほぼ予定通り支出されている。
- ・会議費は、密を回避するためにホテルの会議室を使用する回数が増えたことなどから、予算より支出が増額している。
- ・備品費は、オンライン会議のために必要な物品を購入する予定。
- ・通信運搬費は、電話や郵券等の支出の他、セキュリティー環境の強化にも支出している。
- ・慶弔費の中の、退職記念品の執行は、1月に執行予定となっている。
- ・雑費は、広告料等に支出しておいる。特別会計の運営積立金への繰り入れも予定している。

次に、特別会計について。

1 運営積立金について

- ・3,000,000 円の収入は、昨年度、旭川大会実行委員会に支出した大会運営費の返戻分である。
- ・支出は先ほど述べたように、4月に一般会計へ12,000,000 円を運営資金として貸し出ししている。
- ・地区研修補助金として、今年度は2,360,000 円支出している。
- ・次年度の渡島・北斗大会の運営費として3,000,000 円支出している。

2 全連小基金について

- ・収入としては、繰越金と令和4年度の新会員168名による拠出金である。

3 退職積立金について

- ・事務所の職員退職金のための積立である。年度末に積み立てる予定。

4 雑収入

- ・地区校長会活性化事業①は、地区校長会20地区に各地区10,000円ずつ「研究実践交流事業」として支出している。
- ・地区校長会活性化事業②は、全連小が行っている海外教育事情視察に参加するための補助である。ここ数年、コロナ禍により事業の実施がなかったため支出がなかったが、次年度は実施する予定との連絡を受けている。前回の割当ては3ブロックだったので、次年度は4ブロックから参加者を選出してもらうこととなる。

5 道小基金について

- ・収入としては、繰越金と令和4年度の昇任校長の拠出金となっている。
- ・支出としては、渡島・北斗大会の準備金として500,000円となっている。

6 全国大会準備金について

- ・ 8年毎に巡ってくる全連小北海道大会の準備金として積み立てているものである。
- ・ 今年度の積立は、年度末に行う。

以上、雑駁ではあるが、一般会計並びに特別会計中間決算の報告とさせていただきます。